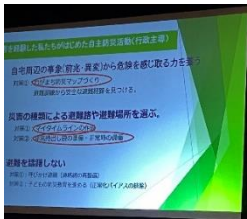


開催地名	神奈川県秦野市
開催日時	令和6年1月27日（土） 10:00 ～ 12:00
開催場所	クアーズテック秦野カルチャーホール（大ホール）
語り部	柳迫 長三 （広島県広島市）
参加者	自主防災会等 312名
開催経緯	当市においては、自主防災会等に対し年2回の訓練や防災指導員に対する講習会を実施し、地域防災力向上に努めている。幸いなことに近年は地震、風水害等による人的な被害は発生しておらず、災害経験は少ないと言えます。それに伴い災害に対する意識も希薄化していくものだ。 そこで今回の語り部による災害経験を契機に取り組み始めた自主防災活動から新たな知見を取り入れ、あらためて災害に対する意識及び地域防災力向上の一助とさせていただきたい。
内容	（1）『20年間での3度の大きな水害』 ・H11.6.29 豪雨災害 ・H26.8.20 広島豪雨災害 避難した集会所に土石流が流れ込み、山の傾斜のすぐ近くにあった集会所は集会所ごと流された。 ・H30.7月 西日本豪雨災害 河川の8ヶ所が決壊した岡山県倉敷市真備町の3分の1が浸水した。 避難指示が出ていたが、犠牲にあった高齢者等の災害弱者は在宅避難を行ったため、家屋流出や5mの浸水によって大きな被害が発生した。 （2）『豪雨災害で感じたこと』 ・日頃から震災時の対応について家族で話し合うが必要。 ・過去の災害歴を若い世代に伝える。 ・全世代が活動する自主防災組織の必要性。 ・避難所の開所は、役所に頼らず自分たちで運営する。 ・避難所での関連死をなくすための環境づくり。 ・教育現場との連携。 ・体の弱い人や赤ちゃんがいる人への配慮。 （3）『自主防災委員会の活動』 自宅周辺の事象(前兆・異変)から危険を感じ取る必要がある。（自分で歩いて作る「防災マップ」どこが危険か自分で歩いて確認する）また住民にアンケートを実施し災害時に助けてくれる人はいるのか？自主防災会の助けは必要か？など個別計画を把握した。

	・大人への防災教育 非常持ち出し袋、無事を知らせる「無事タオル」の配布し、地域の危険箇所の確認・共有した。研修会を開催し、若い世代が参加しやすい防災活動に取り組んでいる。 ・子どもへの防災教育 「キッズ防災士」の養成講座を小学校の総合学習の時間に防災を取り入れている。授業で防災を学ぶことにより、家族間の話し合いが増えることへ繋がる。 困った時に相談に乗ってくれる近所付き合いが大事である。(顔見知りになる、挨拶をする、相談をする、声をかける。)『自分たちの町は自分たちで守る』ことが出来るように、地域のコミュニティの力を向上させることが必要である。自分たちの町分たちで守るには近助・共助が大切になってくるので、隣近所2～3軒の人と顔見知りになり、お互いのことを知り助け合うことが必要である。 ＝活動内容＝ ・自主防災活動の活性化（防災士の資格獲得者の増員、ボランティアの募集、女性防災士の登用） ・「無事です」とプリントされたタオルを家庭に配り、安否確認の際は家の前に掲げわかりやすくした。 ・自宅周辺の事象（前兆・異変）から危険を感じとる力を養うため、歩いて地域を周り50～200世帯の防災マップを作成した。 ・子供の防災教育を進めるため、小学校の総合学習の時間に「防災」を取り入れている。落合学区では総合学習の40時間を防災にあてている。自分たちで疑問点を見つけ調べそれを発表する。防災について勉強したことにより家族間の話し合いが増えたという。 ・スマートフォンで体調管理をしたり、安否確認システムを活用したり 「自分の命は自分で守る」ことのできる地域になることが重要である。  
開催地より	今回の講演では、災害経験を基にした実践的な自主防災会活動だけでなく、小学生から高校生の若い世代の防災リーダー育成に関する事業など幅広い講演内容だった。語り部からの「自分達のまちは自分たちで守る」という強い言葉が印象的であり、改めて自助・共助の重要性を認識することができた。若年層への啓発活動を参考にし、次世代防災リーダーの育成について推進していきたい。